

地域密着タウン紙に自衛官募集広告掲載

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 服部 3 陸佐）は、6月16日（木）、地域に密着した広報紙「タウンニュース」に、「自衛官募集」の広告掲載を実施した。

きっかけは、ブルーインパルス飛行隊長の稲留 2 佐を紹介した県立港北高校OB「思港」を目にした同校OBのタウンニュース記者より、ブルーインパルスの記事を掲載したいとの連絡があり、募集相談員の協力を得て、掲載記事を併せて自衛官募集の広告を掲載を依頼したところ、広告掲載が実現したものである。

当広報紙は、横浜市の公共施設及び各家庭に配布されるため、広報効果は期待できる。これからも人との繋がりを大切にしていきたい」と語った。

横浜出張所は、「今後も、様々な広報の機会を利用し、募集基盤の拡充に努めたい」としている。



タウン誌をとどける記者（左側）

タミヤファクトリーにポスター

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 服部 3 陸佐）は、6月24日（金）、横浜市港北区にあるショッピングセンター内のプラモデル専門店「タミヤファクトリー」店舗内に、総合火力演習のポスター掲示を依頼した。

同ポスターは、ミリタリー系のプラモデルが並ぶ棚の近くでの掲示により、店舗を訪れた人や、戦車等のプラモデル製作を見学する人たちに、広く総合火力演習を周知することができる。

店主からは、「これからも地域住民に対し、プラモデルを通して、自衛隊の活動を応援していきたい」との言葉も聞かれた。

横浜出張所は、「今後も、様々な場を活用して、自衛隊のイベントや活動を発信する環境を整え、募集基盤の拡充に努めたい」としている。



戦車の模型が所せましと並ぶ店内



タミヤファクトリー内に掲示（右：店長）

潜水艦研修

神奈川地本カレッジ防衛モニター 一色 啓弥

6月24日（金）、カレッジ防衛モニターとして、横須賀米軍基地にて海上自衛隊の潜水艦見学に参加した。

当日は、横須賀米軍基地に入門した後、米軍基地内の自衛隊員の方から潜水艦についての基本的な解説を受け、その後艦内の研修に向かった。

潜水艦の甲板にて乗員の方々の出迎えを受けた後、艦内の見学が始まった。操舵や周囲の監視、艦内への指令を行う発令室からエンジンなどがある機械室、乗員の方が食事をとる科員食堂や実際の魚雷が搭載された発射管室などを乗員の方々の丁寧な説明を受けながら見学していた。どの区画も潜水艦という狭く限られた空間をフルに生かした設計で無駄がなく、火災や浸水の際に迅速に対応するための機構が備えられていた。

見学の際には、機械室で整備や科員食堂で食事をとっている多くの隊員の方々が勤務している姿が見られた。また、どの隊員も見学に来た私たちにとっても丁寧に対応して頂くとともに、隊員同士の間には緊張感のある姿も見ることができ、隊員の方々の任務に取り組む真摯な姿勢が感じられた。

潜水艦はその高い隠密性から海に囲まれた日本の防衛において優れた抑止力を発揮している。今回の見学では、潜水艦における高い効率性や艦内の異常事態に対応できる安全性、そして乗員の方々の任務や訓練に取り組む姿から国防という任務に対する責任感を感じることができた。



記念撮影（中央が本人）